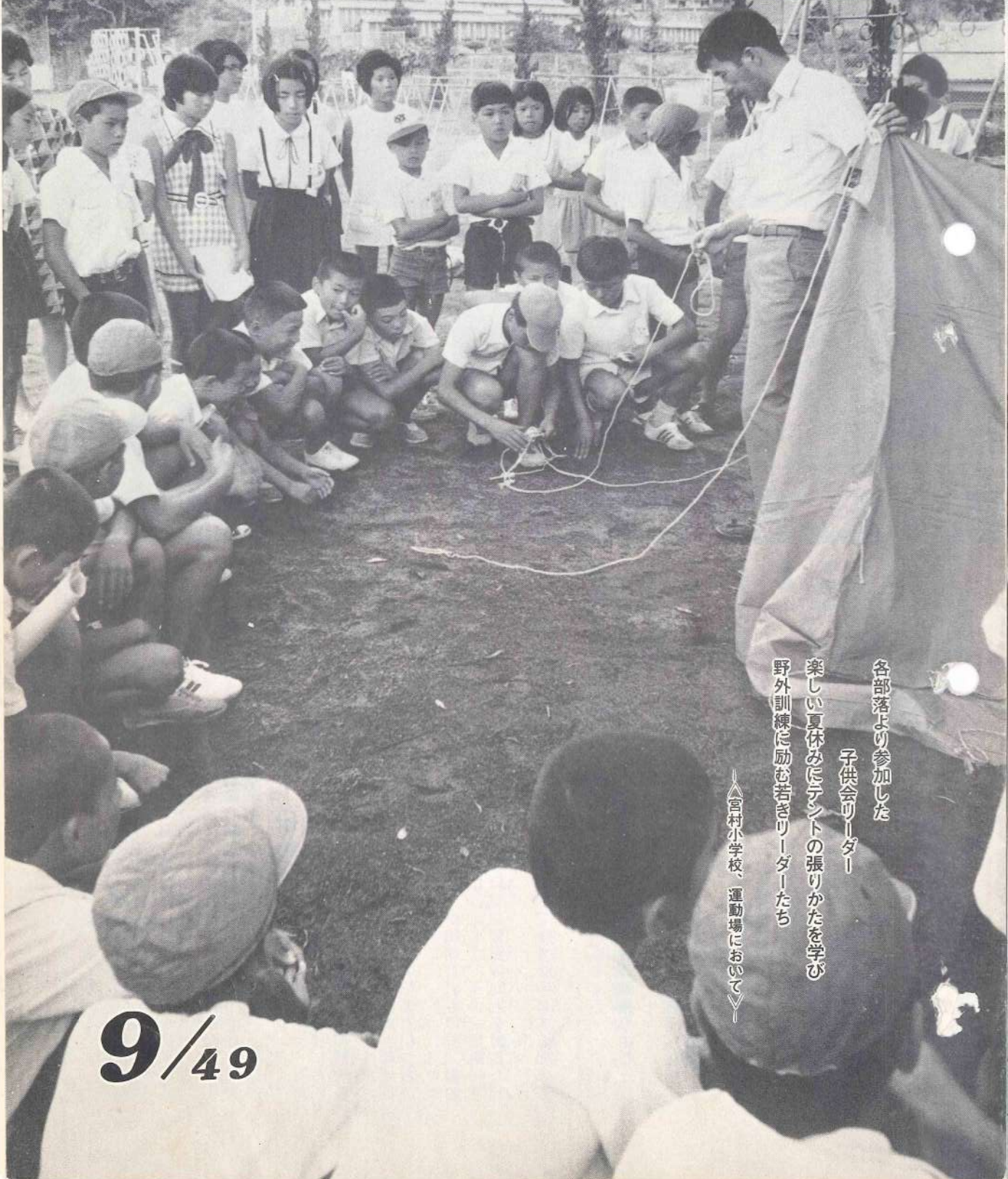




広報みまた



各部落より参加した

子供会リーダー

楽しい夏休みにテントの張りかたを学ぶ
野外訓練に励む若きリーダーたち

宮村小学校、運動場において

9/49



全ての消防団に配備された消防自動車



親と子が一緒に水難救急訓練



県大会で優勝した三股中剣道部員たち



まず、お互いに自己紹介をしてそれぞれの役割を決めることもたち

消防自動車三台を購入

機動力を充実

昭和四十八年度においては、第二、五、六、七部に消防積載車が配置され、本年度は残りの第一、三、四部にそれぞれ配置されました。これに伴い、去る七月二十四日、町役場において、しめやかに入魂式が行なわれました。

その後、交付式が行なわれ各部に引渡され機動力の充実が図られました。現在本町には一四七名の消防団員のかたがおり、忙しい勤務のかたわら町民の生命財産の守りに努めておられます。

子供会リーダー研修会

去る、七月二十七日から二十九日までの三日間、宮村小学校において、町子供会育成指導者連絡協議会、町PTA連絡協議会、町教育委員会主催で子供会リーダー研修会が開かれました。

この研修会は昭和四十六年より行なわれているものですが、年々回数を重ねるにつれて父兄連の理解も深まり子供連への指導力がぐんぐん上がってきました。

今回の研修会は、各小学校の部活リーダーが出席したもので、参加人員八七名で行なわれ、規律ある団体生活を通じて、子供会活動の理論指導法を学びリーダーとして責任を自覚し資質の向上を図ることを目的としています。

親が主体でなく子供連の手で自主的に運営できるようにするため夏休みを利用して集団訓練を行なったものです。

県中学校体育大会

八月一日から三日間、県中学校体育大会が県総合運動場を中心として開催されました。

当町からは、それぞれ郡予選を勝ち抜き、バスケット、剣道、陸上、野球、弓道、体操、テニス、柔道（個人）が晴れの県大会に出場しました。

●野球 真幸中に七：一、唐瀬中に二：一と勝ち第三回戦まで駒を進め、庄の中に延長八回のすえ四：三で惜敗しました。

●陸上 二千メートル持久走で三年生の福田照美君が優勝し日頃の練習の成果を発揮しました。

●剣道 団体戦では木城中、高千穂中、高岡中を破り、決勝戦では土々呂中と対戦し苦戦を強いられましたが三対二で優勝を決めました。

なお個人戦においても大将 轟木選手（三年生）が優勝し、日頃のたゆまぬ鍛錬の成果を発揮した。

【全県大会】県大会で優勝した三股中剣道部は来る八月十六日、武道館（東京）で行なわれた全国、中学校剣道大会に出場しました。全国大会では各都道府県の予選を勝ち取ってきたチームだけに、どのチームをとっても、その力の優劣は比較しがたく、特に本年は各校の実力は充実し、僅差であったといわれる。

その中において、足寄中（北海道）、大社中（島根）、勿来第一中（福島）を破り準々決勝へ駒を進めましたが、高知学芸中（四国）と対戦したが一対一のまま四回延長戦まで力の限り戦ったが惜敗し涙をのんだ。

これで同校剣道部は連続三回、県大会で優勝し全県大会への出場三回うち連続二回のベスト八への進出を果たしたことになります。今後、なお一層の活躍が期待されています。



水しぶきをあげて力泳する女子選手
(梶山小プール)



子供の熱い声援をうけて頑張る父兄たち
(三股中グラウンド)



三股町・小学校水泳大会

去る八月十九日、梶山小学校において、三股町教育研究会（体育部）の主催により、町内小学校、水泳大会が郡大会予選を兼ねて行なわれました。

この大会は昭和四十六年より行なわれているもので今回で第四回を数えるものです。

子供たちにとって最も楽しい夏休みの間、各小学校では、連日、大会に備えて厳しい水泳訓練を行なってきたものです。

この大会には五、六年生の男女が参加し、二十五メートル、平泳ぎ、背泳ぎ、五〇メートル、平泳ぎ一〇〇メートル、そのほかクロール、平泳ぎのリレーが男女別に競われました。その泳ぎっぷりは、小学生と恐えないほどの美しいフォームで、素晴らしい泳ぎをみせ、父兄連の目を魅了しました。また子供連は衰いやけた肌で、水しぶきをあげ、力強く泳ぐ姿は健康そのものでした。

地区別、中学校PTAバレーボール大会

去る八月二十四日、三股中学校において、地区別対抗バレーボール大会がPTA専門部（保健体育部）の主催で開かれました。

この大会はPTA活動の意識の向上と親睦を図るために行なわれたものです。

男子三人女子六人の混成、七チームと中学校教職員、一チームの計八チームで競われました。

日頃、運動不足がちな、お父さんお母さんがたは夏の炎熱下で一生懸命プレーをし、子供さん達から熱い声援を受けながら楽しい一日を過ごしました。

(成績) 第一位 第六地区 第二位 第二地区 第三位 第一、三地区

カールー?

更正保護婦人会

私達の町には次代を担う青少年を、健やかに育てるために、いろいろな組織が出来ており、その活動も年を重ねるごとに活発な動きを見せています。

更正保護婦人会(会長、中西初子 会員三十三人)もその一つです。小さなグループではありますが常に青少年の保護、更正という、地味な活動を進めているほか、地域の実状に応じた独自の対策も展開しています。

結果として一挙にその効果を見ることはできないが、一人でも会の一員として立派に育ってくればいいがと婦人部らしい活躍を見せています。

年に数回、開かれるこの会は、会員の出席もよく、いろいろな議題を真剣に協議したり、最近の社会、経済の急激な移り変りに備えるため、あらゆることに関心を持ち意見を交換をしたりしています。また、母親としての理解とこれからの時代のテンポにおくられまいと、常に新しい知識を求めて、お互い社会勉強をすることも忘れず、和気あいあいの中で営まれています。しかし残念なことに、地味で陰の仕事だけに、「更正保護婦人会」について、充分な理解をされないむきもあり、これからは、も



青少年問題を真剣に討議する更正保護婦人会



朝夕の食卓は自分達の作った野菜でと種まきをする婦人たち

家庭を明るく 町を明るくする 婦人会

「今年の婦人は勉強をストジヤゲン」とか「コマエは婦人会で按摩をトイメツ、教えヤツタイメツ」とこんな話が町内のあちこちで聞かれるようになって。本年から婦人連絡協議会では活動の単位を部落婦人会に「婦人学級」を各部落を中心にして、知ること、学びたいことを全会員が自主的に学習するようにしました。

女性は結婚すると、家事、育児におかれどどうしても家の中に閉じこもりがちになってしまふ。こういう外に出る機会のない婦人にとつて勉強をもつことは、世間一般を知るうえでも大変貴重なことなのだ。

自分の任んでいる近くの部落館や会員連の家で気軽に学習会をもつことができることも非常に魅力なのです。季節に応じて料理の講習、踊りの講習、按摩の講習等、忙しいけれども多少でも勉強して、自分の

可愛い子供達との語らいのためとか、姑さんとの潤滑油としての役にたてばとか、明るく楽しい家庭づくり、一生懸命がんばっておられます。

先日ある部落館で指圧の講習会を開かれました。その会場に嫁と姑が仲良く一緒に参加されたのです。最初は嫁が姑との肩を揉んだり、たいたしていましたが、時間が経つうちに今度はお互いにもんだり、もまれたりして、なんともいえないながやかな雰囲気がい会場いっぱいにあふれていました。

婦人会を終ってから勉強会を実施しています

婦人会でのいろいろな有意義な活動、婦人会を終わつても、ひきつづいて学習会をもつ。こういうような婦人会を終わった人だちで作つていけるグループがある。これが白百合婦人会なのです。「まだまだ若い者には負けはしません」と頑張っておられます。梶山(上の馬場)の白百合婦人会(会長、橋原アイ子)二十七名では自分達で作つた新鮮な公害のない野菜を食卓へとプロッコリーの栽培を手がけています。この夏の暑い時期の管理は大変困難だと言われますが、毎日朝晩の水かけから除草、追肥、移植なども全員が力を合わせて管理をしました。その甲斐あってか、もうすぐ会員達それぞれ苗が配布される各園で大きく育つこととでしよう。「野菜も安くありません」でき

るものは自分達の手で自給自足しよう。私達の生活を振り返り合理化と健康管理の面からも考えてみたいものです。次はキャベツ、白菜、カブ等の栽培に取り組みたいと意欲を燃しています。

三股町短歌同好会

この会は昭和四十三年に発足して現在にいたつていっているもので、日常生活の喜怒哀楽を感じるままに短歌にうたいこみ情緒豊かな心を磨いていっているのです。

現会員数は二〇名で毎月、中央公民館において、第三金曜日、第四土曜日の夜七時より、作品を持ち寄りできれば、お互いに批評しあつて研究会をもつています。また作品は色紙や短歌にしたり、町の自然散歩道に会員たちの創つた短歌を書いた立札を立てたりして町文化活動の推進も図つて

去る八月四日、都城総合福祉会館で行なわれた、第七回三州同歌会で六人の会員が応募しうち四人の会員が入賞する等、素晴らしい活動を展開しています。会長、藤美代子さんはこの活動の輪を拡げて、より多へる人が参加して「仲間がふえてくれれば」と期待しています。

【作品紹介】

◎母でなく妻でもなき身の句はねば今宵は花の浴衣をまよふ 三代子
◎農に生きるこの掌に託す一票よ必ずつながれ国の政治に 森 八重
◎雨降るる由に母と草取るに互みに熱し汗拭ふのみ 長尾 イチ子

建築現場での感電事故がふえています

この数年、建築現場における作業者の感電事故が、たいへん増加しています。配電線の近くの建築現場などで作業されるときは、近くの配電線に触れないように十分注意してください。四十八年度では約三十件の事故が起つていますが、その内容で多いもののみをみますと次のようになっています。

- ビルの足場組立作業中、パイプが高圧線に接触感電負傷した。
- クレーン車を操作して建設用鉄材の移送作業を行っていたとき、クレーンの先端、またはワイヤロープが高圧線に接触感電死亡した。
- 看板取付塗装中に感電負傷した。
- 家屋建築中に手または頭が上部の高圧線に接触感電負傷した。

農作業は安全に

慎重はあなたを守る!!



お知らせ

海上保安 大学校 学生募集

●受付期間 十月十五日(火) ~十一月七日まで

●採用予定数 約五〇名

●海上保安大学校学生 約二〇〇名

●受験資格 昭和二十六年四月二日(大学校学生は昭和二十九年四月二日)以降生まれの男子

●高等学校を卒業した者又は昭和五〇年三月まで卒業見込の者

◎大学入学者資格検定に合格した者

◎第一次試験 二月七日、八日

◎第二次試験 昭和五十年二月六日、七日

◎指定する日 月八日

◎なお詳細については人事院九州事務局(福岡市博多区博多駅東二一―一一)へお問い合せください。

相和かすか
アミをいれか。

町のいぼれ話

宮村から一万城へ通じる並木線は、今でこそ道巾も広くなり、舗装もしてありますが、ずっと昔はその名の通り松の木の間道でした。夜がふけてくると、時々キツネが出てきて、道行く人をダマカシていたそうです。

吾作どんのゼニがシバに

—その頃のおはなし—

吾作どんは、大へんシウチュウウが好きで、お金がいると、都城へ出て行って飲んで帰るのが楽しみでした。

もっているお金はぜんぶ残らず使ってしまうので、ウツカタ(奥さん)は言っていたそうです。

ある晩のこと、吾作どんは都城へ行きたくて行きたくてたまりません。「こんやミヤコンジヨウで

あきないのゼン(お金)がイッジ、モレケ、イタツクライ」と言

って家を出ました。ウツカタは、ちやうどお金もとばしくなっていた頃で、「イタツキャン」と心よく見送りました。ところがシウチュウウ好きの吾



作どんのこと、例によって次々と飲みまわっているうちに、手に入れたお金もとうとう使い果してしまい、その夜もひよろひよろと並木街道を歩いて帰ります。だんだん酔がさめてくるうち、ひよっと立ち止まった吾作どんはなにを考えたか、落葉をひとつかみ、つかんでふところへ……。早や一番鶏が鳴きはじめた頃、ようやく家にたどりついた吾作どん。うとうととして主人の帰りを待っていたウツカタが出てきて、「オハンなゼンな」「アラッ、ゼンがシバンナッチョイ、センニ、キツネンおおたが、あんやつがゼンをシバンカエタ、モンジャガー」……。

こう話してくれたオジさんは、大声で笑いながら、湯のみ茶わんに入ったシウチュウウをグツと飲みほすと、「センセイもノンミヤハンカ」と言って、私にその湯のみ茶わんをポイと差し出し、シウチュウウびんを右手にして、ワツハツハツハーと大声で笑いました。(わたなべくにひこ)

「お」のつかいかた

◎「お」の整理

敬語の「お」をつけすぎると、くどい感じになる。いちど「お」をつけると、以後ずっと同じようにつけたいと気が済まないようになって、たとえば、「一度お立ちあがりになって、おすわりになりました」といったようになる。これは、「一度立ちあがって、おすわりになりました」と。と終わりだけ敬語形式を使って済ませられるし、そのほうがすっきりするはずだ。

「妃殿下は、お口にお手をお当てになってお笑いになっていらっしゃいました。」というのも、

「妃殿下は、口に手を当てて笑っていらっしゃいました。」で失礼にならない。おしまいの動詞を敬語にして、それで全部を包むようにするのが、この種の表現のコツである。「お書きになられる、お受けになる」というのもくどい。

「お書きになる、お受けになる」でよい。「お：なられる」と言う必要はなく、「お：になる」のかたちでよい。「ご卒業された、ご調査された。」も、「された」がすでに敬語だから、「ご」をとって、「卒業された、調査された」と言うか、または「お(ご)：になる」の形で、「ご卒業になった、ご調査になった」と言うのが正しいでしょう。

編集後記

子供達にとっては楽しい夏休みも終り、真黒に日やけた健康な体で二期を迎えたことでしょう。

これからはだんだん朝夕、気温が下がってきますので寝冷えや、風邪をひかないよう注意したいものです。

※「広報みまた」では皆さんからのいろいろなニュースをお待ちしていますので広報係までお知らせください。

三股町の人口

8月1日現在

男	7,328人	出生	28人
女	8,244	死亡	2
計	15,572		
世帯数	4,528戸		